

カーコンカーリース

「頭金0円」、しかも「登録時諸費用」や乗っている間の「車検基本料」、「自動車税」、「自賠責保険料」、「自動車重量税」すべてが月々税込み 8,000円（※）に含まれています。さらに、ご契約期間満了時には車がもらえます。 ※8,000円は、ボーナス月加算ありの金額となります

「私は、一日266円で

（※）

車に乗ってます」

※266円は、ボーナス月加算額を含んでおりません



※9年カーリースの場合 ボーナス月加算あり

カーコンカーリースの **0120-29-5353** <受付時間>8:00~22:00  
お申込みお問い合わせは   〒108-0075 東京都港区港南2-11-19大滝ビル

変化への挑戦(1)

21世紀に入って、地球の環境や国際情勢、国家レベルの社会の変化など、目に見える形で新しい時代に入ろうとしている。カーコンビニ倶楽部におけるこれらの変化への対応は、大きく分けて次の3つである。

- (1) 発展途上国の経済的發展に伴う車市場の変化
- (2) デジタル経済への移行による商売の仕組みの変化
- (3) 車市場におけるエネルギーとデジタル化への加速

まず、日本における経済發展は、1985年以来、GDPの停滞及び下降により、頭打ちとなっている。今後高齢化による医療問題や、少子化による財政難(税収減少)などを考えると、社会全体がよりコンパクト化し、シンプルになっていくと思われる。「断捨離」などという言葉が流行ったのも、その傾向の一つで、車マーケットにおいてもリースやレンタルなどの長期保有と共有型の市場が形成されている。新築のマンションにもレンタルバイクやレンタカーが施設の一部として備えられているし、レンタカー各社の売り上げも増加している。しかしながら、マイカーは自分の思想やライフスタイルを表現したり、また目的や家族の構成などでレンタカーでは対応できないパーソナルな需要もあり、今後とも市場は永続的に安定していくであろう。社会の変化は、あくまで一般論であって、それに対応する個人は百人百様。そこにあるのが「愛車主義」なのではないかと思う。

(2)のデジタル経済への変化であるが、GPSをつけた車が音声入力によって目的地に向かう。車におけるキャリアである。履歴やそれに伴う個人の嗜好がAIによってデータ化されることにより、既にスマホで行われているように、運転席に座った瞬間に車はユーザーに対して目的地を選別させる。例えば、目的地がスーパードであれば、車の中でデジタルショッピングモードなるものから買い物の項目を指定し、それをキャッシュレスで引き落とす。2030年には、自動運転がある程度進化し(おそらく運転席でのハンドル操作、ブレーキ、アクセルなどの操作は自動化する)、車そのものがインターネットの端末としての機能を強化していくであろう。これに伴い、カーコンビニクラブにおいても、お客様とお店の関係も多少変化していくように感じる。いくらDXといっても、50代以降のカーユーザーの中には、インターネットに関する不信感や嫌悪感を持つ人も多く、さらに操作に関する不満も多く聞く。このあたりにカーコンサルティング的な意味合いの仕事が少しずつ増えていくのではないだろうか。

今月号と来月号にわたり、時代の変化における私の予感なるものを執筆していこうと思う。



林 成治 Seiji Hayashi  
出身:北海道 青山学院大学経営学部卒業  
1981年4月:プロミス株式会社入社  
2008年4月:同社執行役員就任  
2008年8月:カーコンビニ倶楽部株式会社 常務取締役就任  
2008年10月:同社代表取締役就任  
2009年8月:ハル債権回収株式会社 常務取締役就任  
2010年4月:株式会社Do フィナンシャルサービス取締役就任  
2011年1月:同社取締役退任  
2011年1月:カーコンビニ倶楽部株式会社 代表取締役就任